

健康づくりチャレンジポイント事業を展開

埼玉県寄居町

＜厚生常任委員会研修報告10月1日～3日＞

平成23年に「寄居町介護・医療・福祉連携プロジェクトチーム」を立ち上げ、国民健康保険の赤字削減、医療費適正化のために、町民が健康的な生活習慣を身につけ、健康づくりに対する意識高揚を図るとともに、自ら取り組むきっかけづくりを目的とした「健康づくりチャレンジポイント事業」を実施している。

この事業の対象者は、20歳以上の町民で、町が実施する特定健診・特定保健指導や各種がん検診・結核検診・歯周疾患検診を必須事業としている。

そのほか、「私の取り組みチャレンジポイント」として、自らの健康づくりへの取り組みが目標に達したときに獲得できるポイントもあり、その合計が100ポイント達成した人には、買い物券や図書カード等の記念品を贈呈している。



また、事業展開に向けては、全庁あげて開催する様々な事業（子どもから高齢者まで）や生涯学習事業もポイント対象としたため、健康づくり事業への参加者の増加にも繋がっている。

このように、健康づくりチャレンジポイント事業は、町が実施する特定健診への勧奨と併せて、生活習慣の改善に向けた住民の健康づくりへの意識向上にも大きな成果が見られている。

平成21年度より、「安心ほっと生活サポート券給付事業」として、会員登録による地域通貨を活用した地域住民による支え合い事業に取り組んでいる。

安心ほっと会員の対象者は、ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯・日中ひとりになる高齢者・在宅で介護保険を受けている世帯・在宅で障がい者がいる世帯である。

この「安心ほっと会員」の支援・要請を受け、社会福祉協議会のコーディネートスタッフが、近隣に住む「サポート会員」との調整を行い、支援内容及び必要な通貨の枚数を決め、安否の確認を前提とした、「ゴミ出し・買い物代行・掃除・話し相手・

地域通貨を活用した 支え合いの地域づくり

長野県軽井沢町

草むしり・雪かきなど会員の困りごとを地域通貨を活用し、地域住民の関係性の中で支え合う事業である。

町内110の加盟店舗で、1枚200円の金券として会員以外でも使用でき、高齢者等の支援にとどまらず、地域商店の活性化にも繋がる事業として行われている。



地域通貨「ルイザ」

八女市にどう生かす

本市は、特に高齢者のひとり暮らし、高齢者のみの世帯が増加傾向にある。

このような状況に対応するには、地域住民による支え合いが必要であり、「生活支援サポート事業」は地域福祉計画等においても大いに参考にすべき事業である。

また、市民の健康づくりに対する自主的な意識高揚を図るには、関係各課が連携した大胆な企画・事業実施に向け、今後十分検討を行うべきである。

議会だよりをもっと身近なものに

〈議会だより編集委員会研修報告10月27日～28日〉

鹿児島県始良市

- 公平で正確に
- わかりやすく(中学生でも理解できるもの)
- 専門用語は極力使用しない
- 写真を多く
- 一般質問は2問まで
- できるだけ早い発行(30日程度)

議会だより「あいら」

の名称は、(加治木・始良・蒲生(かもつ))合併



後の融和で親しみやすさをイメージしてひらがなにした。

議会だよりに関して、市民の声を聴き、随時掲載している。

議案の賛否表については、議員問での今後の検討課題となっている。

鹿児島県日置市

○市民に伝えたいことは何か

○市民が知りたいことは何かに添えているか

八女市にどう生かす

26年度も残りわずか。お世話になってきている方、大事なあなたの方に手紙を書いていく気持ちで、老若男女の皆様が読みやすく、親しみのもてる議会だよりを発行していきたい。

らえるよう工夫している

今年度から「日置市議会だより」を「ぎかいのとびら」に変更し、好評を得ている。随時リニューアルを進めている。

編集委員の技術向上を図るため市議会だよりのクリニックを受けている。

自伐型林業と6次産業化を視察

〈建設経済常任委員会研修報告10月2日～3日〉

島根県津和野町

住民自身が伐採・搬出等を行い木材を出荷し、収入を得る自伐林家を育成している。チップ生産では、価格が安く搬出経費が出ないため、「山の宝でもう一杯」プロジェクトを設定し、間伐材1トあたり3千円ほどの助成金として地域通貨券3千円相当をプラスし、6千円相当になることで、間伐を推進している。

また、地域通貨券の発行で、低迷していた町内商店が活性化されるなどの効果が出ている。チップは町の温泉施設で活用し、町全体の活力に繋がっている。

広島県世羅町

1次(生産)×2次(加工)×3次(販売・流通)を産業化し、産地の活性化と農業経営の安定化を目指す。世羅高原6次産業ネットワークを設立し、観光農園・果樹農園・産直市場・農畜産物加工グループなど61団体の農業者が連携している。

成果として①世羅高原のイメージ強化②地域特



製品の売り上げ増加③入り込み客の増加④マスクミにとり上げられやすい⑤若者の就農・老若男女の交流⑥異業種との連携、1ターンの農業者との交流⑦協力して大型イベントができる。

八女市にどう生かす

林業において材価の低迷で、手入れ不足の山林が多くなっている。森林組合等に委託しても面積に限度があり自伐林家の育成とともに、若者従事者をどう確保するかである。

また、全国で農業の6次産業化が推進されているなかで、リーダーの存在が大きく、民間レベルの運営が成功する要因であり、八女市全体での連携がより不可欠である。